

山田安信
議員
日本共産党



○コロナ対策に必要な緊急課題について ○「新しい生活様式」に合わせた勝山市の政策の見直しについて

その他の質問

・コロナ危機が問い直した「常識」と「制度」について

問 観光産業は世界的な危機であり、市の観光事業を見直すべき。

①道の駅隣接の産業団地は、具体化している「農家レストラン」と、見通しのないホテル等の事業を切り離してリスクを回避すべき。

②市役所前駐車場横の土地を市が購入して、観光まちづくり会社が建物を宿泊施設にする計画は中止すべき。

答 ①近年勝山市が行ってきた注文造成方式では、企業の進出決定後に産業団地を造成するため、企業が求めるスピード感に対応できず他市との競争に遅れをとることがあった。交通の利便性が高い道の駅隣接地に先行投資によりエリア全体の整備を行い、勝山市に新しく目を向ける企業や施設を積極的に誘致していきたい。

②現時点では※BCPにより協議を中断している。本事業については、市議会との協議を前提に進めていきたい。

※BCP：事業継続計画

問 ①中学校の統廃合計画には文部科学省の「学校の新しい生活様式」は全く考慮されていない。

スクールバスは感染の危険が大きくなる。計画を再検討すべきではないか。

②市内の全小中学校には20人程度の授業ができる教室があり、タブレット活用で在宅学習、国際交流等の全国先進モデルにできるチャンスだ。「小規模校を生かして教育環境、日本一」を目指すべきではないか。

答 ①「感染防止のための対策」と「能力を磨き・伸ばすための教育環境」は次元の異なる課題であり、中学校の再編と中高連携を目指す現在の方向性の再検討は考えていない。スクールバスは、新たな基準等ができればそのルールに沿って運行することになる。

②中学校においては、生徒が磨き合うことができる学校規模が必要との観点から、勝山市の教育環境の向上を目指していく。

常任委員会報告

予算委員会

■今定例会の審査結果

議案第7号 令和2年度勝山市一般会計補正予算（第3号）を審査し、可決しました。

ふるさと農林水産物等詰め合わせ 発送事業業務委託

コロナ禍により帰省が難しい県外の勝山市出身者などに対して、お中元の時期に道の駅で販売する「ふるさと勝山」の農林水産物を送る事業です。1人500円を徴収し、3000円相当の詰め合わせを400名限定で受け付けます。（1人1箱まで、400名を超えた場合は抽選）

勝山市ふるさと回帰U・イターン 就職等奨励金

勝山市への移住を促進するために策定された奨励金事業です。これまでのU・イターンに加えて就職等と定めることで対象者を増加し、より多くの方々が利用しやすい奨励金事業となりました。

当事業を通じて、ふるさと回帰を促すとともに、より一層帰りたい勝山、住みたくなる勝山の構築に努めていきます。

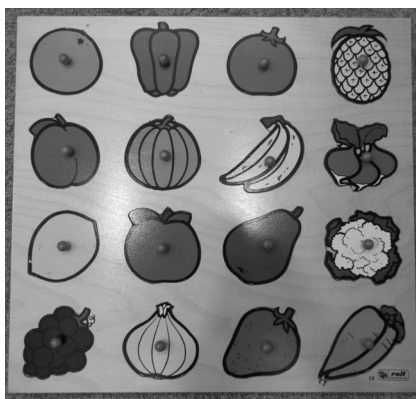
小中学校へのタブレット端末導入

文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、市内小中学生に対してタブレットPC端末を導入します。小学校に539台、中学校に559台、計1098台となります。

議員からは、市内の子供達からも早く導入してほしいという声も上がっていたという意見が出ました。

母子保健事業費

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福祉健康センター「すこやか」の健診室の環境整備として、機械器具購入費に54万4000円を予算化しました。議員からは、どのような機械器具なのかとの質問があり、幼児用の「健診スクリーニング用パズル」等であるとの説明がありました。



健診スクリーニング用パズル